

因幡の古墳

方墳から前方後円墳へ

令和4年3月19日(土)
鳥取県埋蔵文化財センター 東方 仁史

はじめに

今年度から「鳥取県内古墳調査研究事業」開始

○テーマ1

『鳥取県内における前方後円墳築造開始期の研究』

○第1期 鳥取平野

山陰最古級の前方後円墳、本高14号墳のほか、近年の道路建設に伴う発掘調査などで多くの古墳が調査されており、県内でも新たな情報の蓄積が進む。

中でも、千代川左岸は、鳥取平野における古墳時代を、その開始から終了までを通して概観できる地域。

○古墳とは、古墳時代とは

古墳…土を高く盛って築いた墳丘を持つ墓

※墳丘を持つ墓

弥生時代、飛鳥・奈良時代以降にも存在

どこからどこまでを古墳とするか

◎「定型化した前方後円墳（埋葬施設、副葬品、外表施設に一定の約束事が反映されたもの）」の成立をもって古墳時代の始まりとし、

前方後円墳の影響を受けた古墳の築造が終わるまでを古墳時代

その古墳時代に築かれた墳丘を持つ墓が「古墳」

○古墳時代

前期、中期、後期の3時期に区分

前期：3世紀中頃～4世紀後半

中期：4世紀後半～5世紀末

後期：6世紀（7世紀代も含むことも）

※前方後円墳の築造…7世紀初頭に終了

7世紀代を通して墳丘を持つ墓は築造

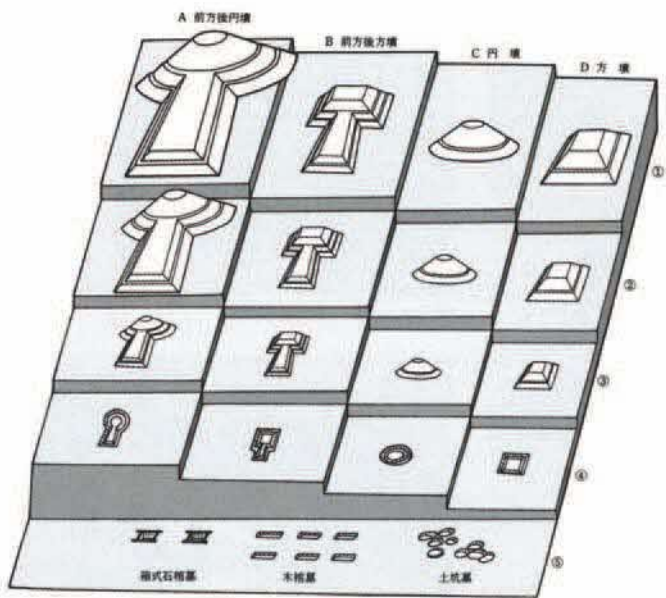
→これらも古墳に含めることが一般的

◎450年間に、北は青森県から南は鹿児島県まで、日本列島に20万とも30万ともいわれる多数の古墳が築造された

○古墳のあれこれ

- ・古墳の大きさ
- ・古墳の外形、形状
- ・埋葬施設や棺の種類
- ・副葬品の種類
- ・築造状況 など

→古墳の時期、
中央との関係



鳥取県の古墳、因幡の古墳

◎鳥取県内の古墳…13,500基以上

前方後円墳・前方後方墳…約250基(中国地方最多)

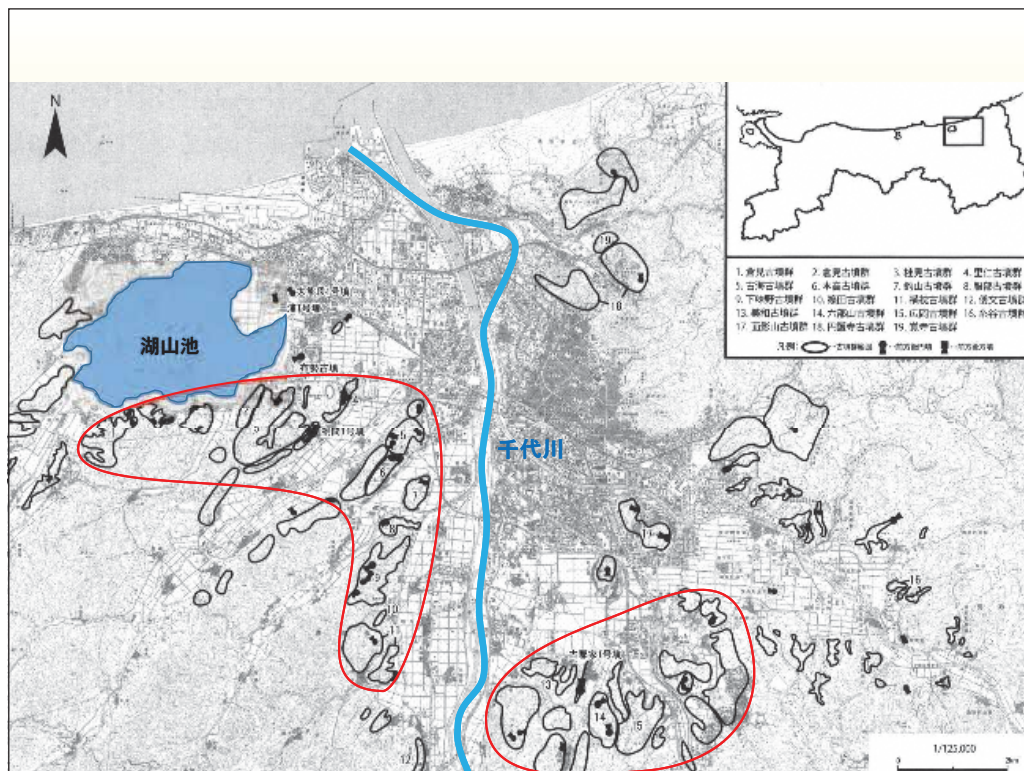
大半は円墳・方墳

最大の前方後円墳…柵間1号墳(鳥取市)、北山1号墳(湯梨浜町)、全長110m超

※大半の前方後円墳は40m以下で、全長60mを超える(大型)のは18基

※今も残る墳丘や発見された情報などから記録されたもののみ

→実際にはさらに多くの古墳が存在した可能性



因幡の古墳

①方墳の時代

鳥取平野最初の古墳…大型の「方墳」

◎特徴

大規模な墳丘(20m超)

中心埋葬施設として大型の組合式箱式木棺の直葬

破碎した中国鏡や鉄製品の副葬

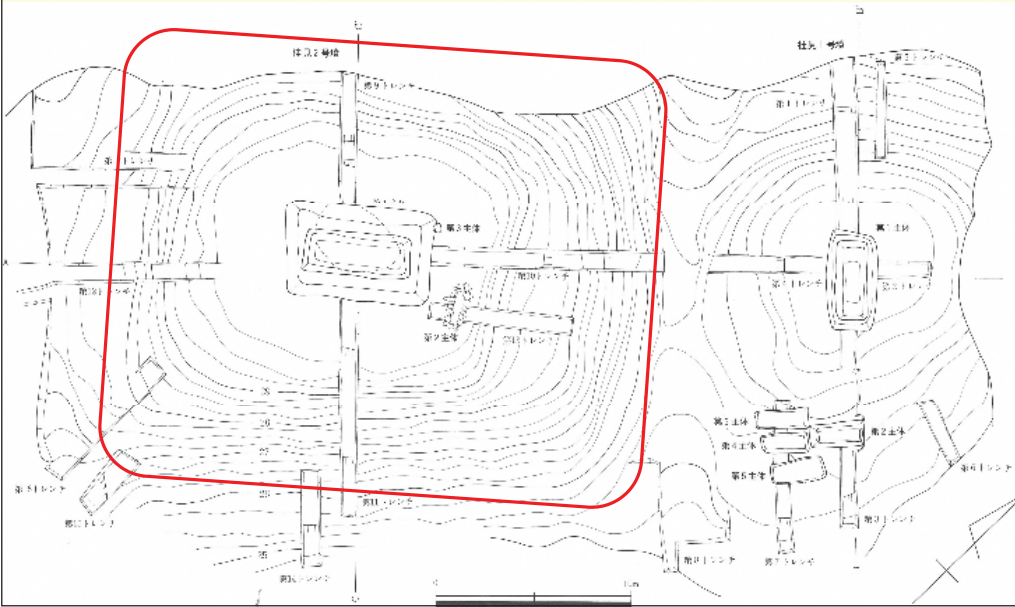
◆ 竪穴石槨、三角縁神獸鏡の副葬、葺石や埴輪

→欠落

○弥生時代後期、山陰地方では首長の墓として「四隅突出型墳丘墓」築造

※継続的に築かれる出雲とは異なり、因幡では単なる長方形の墓も多く築造

桂見2号墳



◎古墳時代最初期の大型方墳

弥生時代の長方形の墳丘墓の系譜を引くもの

○墳形、埋葬施設、外表施設

→伝統的な葬制を引き継ぐ

○中心となる埋葬施設が大規模化、副葬品が増加

→規模や副葬品の点では前代から飛躍

◎同時期の中小の方墳

→木棺の直葬、鼓形器台転用土器枕の使用

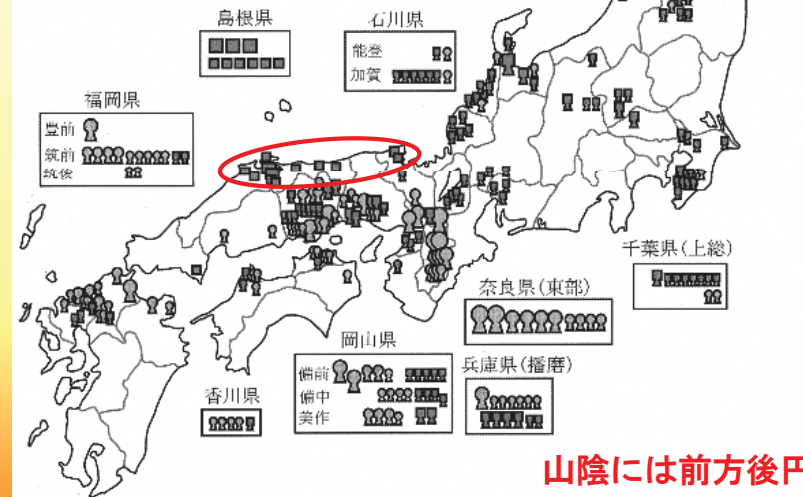
→在地の葬制

古海古墳群



○古墳時代前期前半の古墳築造状況

- 50m級未満
- 50m級～95m級
- 100m級～155m級
- 160m級以上



山陰には前方後円墳なし

因幡の古墳

② 「方」から「円」へ

○前期前半～中頃の方墳

服部古墳群、横枕古墳群、古海古墳群など(左岸)
美和古墳群、広岡古墳群など(右岸)

◎丘陵上に連なって築造、小規模

※銅鏡や鉄製品を副葬する古墳あり

→大型方墳を築いた首長を支える中小の有力者の墓

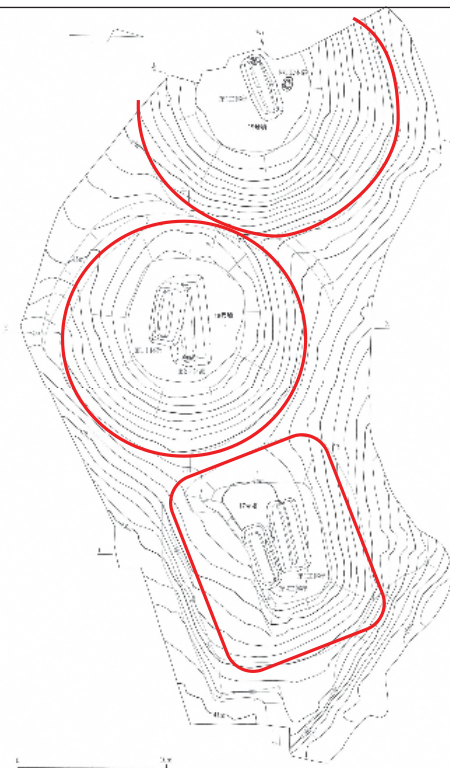
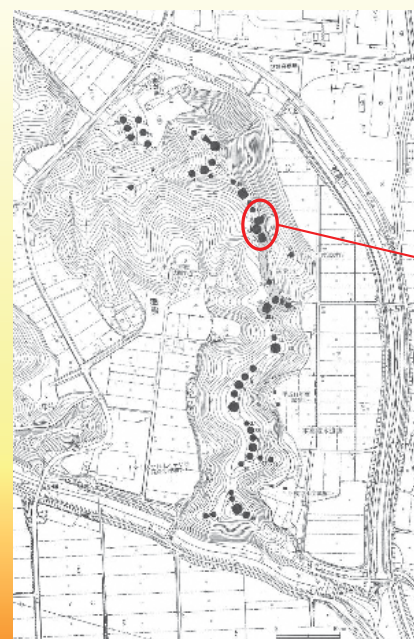
○服部古墳群や広岡古墳群…前期中頃に円墳が築造

枕に使用された鼓形器台の比較

古墳の築造順の検討

→方墳から円墳へ

服部古墳群



因幡の古墳

③ 「方」か「円」か

◎「方」から「円」への時期

→古墳群によって異なる

- ・前期中頃に円墳…服部古墳群など
- ・前期の間は方墳…横枕古墳群、倉見古墳群など
- ・中期前半になっても方墳…里仁古墳群、下味野古墳群など

◎鳥取平野における円墳の登場

→本高14号墳が築造される前期中頃と同時期

※地域により状況は異なる

山陰の前期古墳編年

古墳群	古墳名	形状	築造時期	特徴	備考
服部古墳群	服部1号墳	方墳	前期前半
	服部2号墳	方墳	前期前半
横枕古墳群	横枕1号墳	方墳	前期
	横枕2号墳	方墳	前期
倉見古墳群	倉見1号墳	方墳	前期
	倉見2号墳	方墳	前期
里仁古墳群	里仁1号墳	方墳	中期前半
	里仁2号墳	方墳	中期前半
下味野古墳群	下味野1号墳	方墳	中期前半
	下味野2号墳	方墳	中期前半
鳥取平野	本高14号墳	円墳	前期中頃
	鳥取1号墳	円墳	前期中頃

本高14号墳



本高14号墳

全長63.7m、前方部が細長い「柄鏡形」前方後円墳
墳丘は一部盛土を確認、ほぼ削り出しによって築造

○埋葬施設

後円部中央に2基（埋葬施設1、2）、前方部平坦面に2基（3、4）、北側くびれ部、前方部前端にそれぞれ1基（5、6）

◎埋葬施設1が最古、古墳築造の契機になったもの
→保存が決定したため、未調査

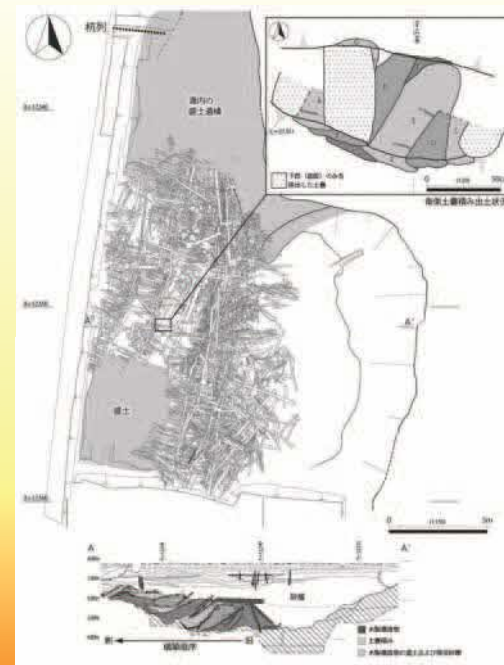
- 埋葬施設3 小型の日本製銅鏡、水晶製勾玉、碧玉・緑色凝灰岩製管玉
- 埋葬施設4 鉞、ガラス小玉、土器（鼓形器台）転用枕
- 埋葬施設5 小型丸底壺
- 埋葬施設6 土器枕

埋葬施設1、2

埋葬施設5
小型丸底壺

埋葬施設3 銅鏡・玉

本高弓ノ木遺跡





因幡の古墳

④古墳の形は何を意味するか

◎古墳時代前期前半期

○弥生時代の墳丘墓の系譜を引く方墳築造

大型方墳＝首長墓

→地域の伝統的な葬制を引き継ぐ

→中国鏡や鉄製品など、副葬品の種類・数量の飛躍

※前方後円墳に関する情報も一定程度入ってきていた

◎本高14号墳

→ある程度ヤマト王権と関係を持ちつつも、独立性を発揮しえた、山陰の独自性が見える

◎古墳時代

…畿内に成立したヤマト王権を中心に、内政や対外交渉を行っていた

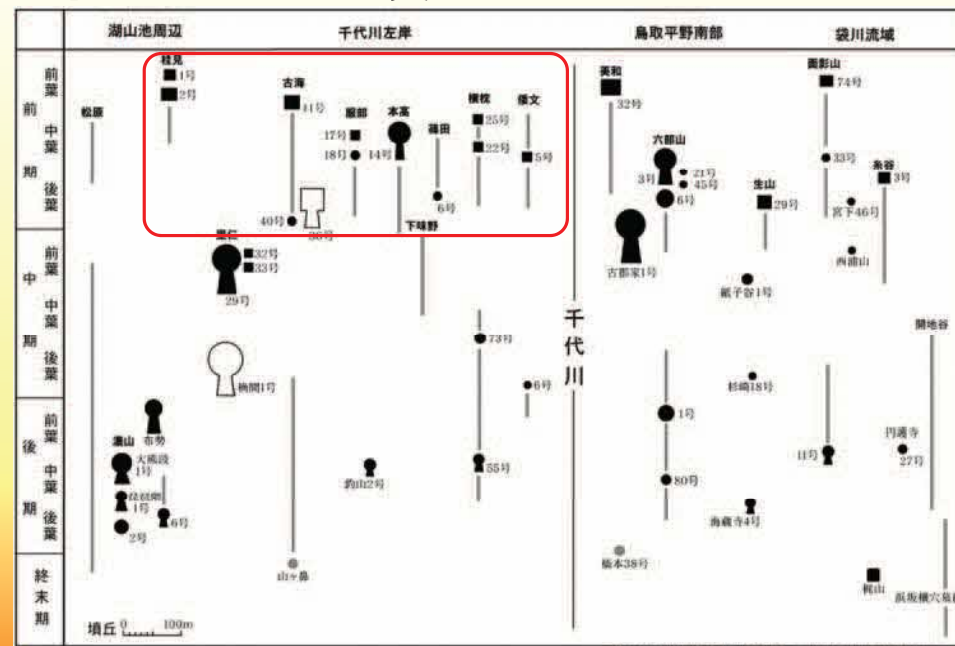
王権は、そこに参画した地方の有力者に対し、人的・物的な見返りとして、銅鏡や鉄製品、石製品など、様々な器物を分け与えるとともに、古墳築造に関わる技術や情報も提供した

→古墳の形や築造技術＝土木技術

◎王権に参画したことの証左として前方後円墳の築造が許される

→本高14号墳の被葬者…一定の独自路線をとっていた山陰の中で、いち早く王権との親密な関係を築いた

鳥取平野の古墳時代



※白文字は時間比定が薄いのもの、灰は墳形が薄いのもの。